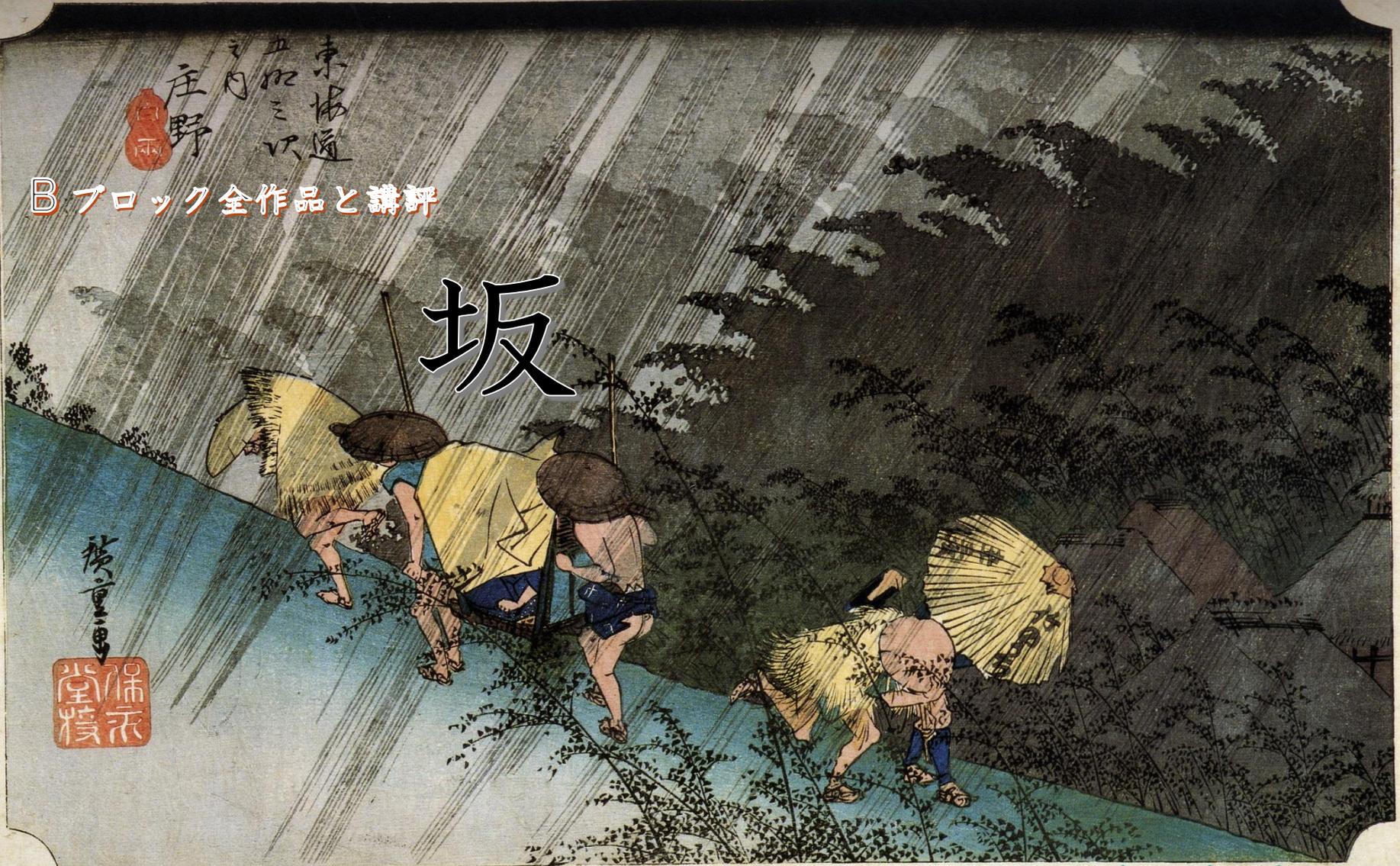


東海通
五加三
之月
庄野

Bブロック全作品と講評

坂



横江三郎
保永
堂

坂 「傾いているのは重力の方」

坂に物申す

坂の定義

とある辞書によると

“一方が高く、他方が低くなっている道。またその傾斜。”

理系である筆者からしてみればこれはあまりにも曖昧ではなからうか？

屁理屈のように聞こえるかもしれないが、さまざまな傾斜について考察してみた。

坂下から坂上までの傾斜角(仰角)を θ とおく。

一、 θ が 0 のとき これは坂ではない、平坦な道である。

二、 θ が 90 度以上 180 度以下のとき 大変斜度の大きい、急な坂である。年寄りや自転車の方には大変つらいであろう

三、 θ が 90 度以上 99 度未満のとき もはや坂というより崖である。坂を下るというより崖を転げ落ちるのほうが表示としては正しいように思われる。

四、 θ が 99 度以上 180 度以下のとき 坂はよく、人生の険しい道を表す比喻として用いられることが多々あるが、これは真剛事なき壁、そびえ立った壁なのである。

とこんなところで、世界で最も急な坂を調べたところ 99 度だったので、この考察は無意味であったのである。(泣きながら)

坂 イントネーション

“坂”という言葉について筆者が最も気になるもの一つにイントネーションがある。

“さ”を強く発音する派(さ派)、“か”を強く発音する(か派)。筆者の体験上、ほぼ同率で両派は存在しているのであるかと考えていたが、詳しく調べてみると“か”を強く発音するのが標準であるらしい。か派は喜んでほしい。(ちなみに筆者はさ派でした)

さ派の多くは西日本、特に博多弁ではさを強く発音する傾向にあるようである。(ちなみに筆者は千葉県出身千葉県育ちである)

まとめ

坂、それはいつも身近にありながら、嫌われ者であることが多い。下る者を転ばせ、上る者を疲弊させる。人間からしてみればそう見えてしまうのも不思議ではない。しかし坂の立場から考えてみれば、足やタイヤに踏まれるために生まれ、ひとたび雨が降れば下に泥水が溜まり、人々に忌み嫌われ、そんなかわいそうな坂なのである。

坂を知り 坂忌みし者 逆上がり 坂に恋せど 逢坂の関

以上

「今日もまた来てしまった。」
僕はそう言つて坂を見上げた。そしてしばらく地面を見つめていたが、観念して歩き出した。見えるのはどこまでも淡々と続く長い道だった。

一ヶ月ほど前から夢の中で同じ情景が映し出されていた。眠りにつくとも目の前に広がる坂道。行く宛もないためとりあえず登り始めるが、歩いても一向に景色はかわらず、ただ前には坂道が続いているのみ。永遠と登り、もう何時間も歩いただろうか、さすがに歩けないと思つたところで目が覚める。そんな生活をもう何日も繰り返していた。

でも、これは見知らぬ坂なんかではなかった。幼い頃よく見ていた、僕の地元の坂だ。僕の実家はこの坂の上にあつた。幼い頃に父も母も失つてしまつた僕は、その家を売つて上京してきていた。毎日使つていたその坂は、数少ない故郷の記憶の中の大事な一部分となつていたが、十数年間、思い出すこともなく過ごしていた。

そんな時、夢にあの坂が現れたのだつた。
そして今日もいつも通り歩き出した。止まることもできたが、もう体は勝手に動いていた。どこまで歩いても坂は続いていた。まるで自分に対しての嫌がらせのようにみえた。もやもやした気持ちを抱え、どうにかしなければい

けないと、次の日、僕は地元を訪ねてみることにした。

十数年振りに訪れた地元は少し活気がなくなつていた。電車を乗り継ぎ自分の駅に降り立つと、どこか懐かしさが感じられた。数十分歩くと坂の下に到着した。そこには夢で見たのと全く同じ光景が広がっていた。

緊張感とどこか懐かしさを感じながら、最初の一步を踏み出した。この坂もどこまでも続いているのではないかという不安にかられながらも、ただ歩き続けた。しばらくすると坂のてっぺんが見えてきた。

そこには自分の家は跡形もなくなつていた。よく見ると、もうすぐ新しい家が建つらしい。とうとう自分の家を見ずに終わってしまった、そう思つたとき、もともと家があつた場所に一輪の花が咲いているのに気づいた。

それは、まだ両親が生きていた頃、家族三人で植えた思い出の花だった。僕は近寄つていつて根っこからその花をひろいあげた。今まで自分がみていた夢は、つぶされてしまう前にこの花を救つて欲しいということだったのかもしれない、と感じた。

花を持つて坂を下つていくとき、ふと花を植えた時の家族三人の情景が浮かんできた。この花は自分の代わりに故郷を守つていてくれたのだと気づいた。僕はその花に感謝を告げた。

〈仮装好きの反くん〉

反くんは仮装がだいすきです、ものを与えるとなりきります

では、まず貝をあげましょう

へいらっしやいーセール中だよお買い得だよ！

次に人をあげましょう

いつも『誰かの代わり』なんですすよね、悲しいなあ

食物をあげましょう

主のためとなれば、被害が生命線となってひんげよう

木をあげましょう

オオンーボクを下敷きにしちゃって下サ〜インアツ〜！

Bをあげまし…

おいー反ー俺のことはもう忘れちゃったのかよ！

君は…

独りで踏まれ続けるのはもう敵々なんだよ…

すまない…辛かったな

俺たち親友だろ？これからもずっと

ああ、これからは離れないよ

うっ…うわああああああ

ふたりは共に、踏まれる存在となるのでした

「なあ、阪って字はあのような険しい道のことを指すみたいだぜ？」

「そうなの！？地名とかでしか見ないから知らなかったよ。」

「だよな。普通『あの字』しか使わないもんなく。」

坂

上り坂

目の前に

そびえたつ

ながくながく

つづくさかみち

この坂のさきには

一体何があるのかな

必死になって歩いてく

汗かき一歩一歩歩んでく

つらく大変な道であつても

前に進むためには上らないと

人生も同じで起伏が激しいもの

今は人生の上り坂なんだとおもう

でも負けない。困難を超えたさきに

素晴らしい未来が待っているはずだ

だからあきらめないでがんばるんだ

必ず乗り越えて、強くなつてやる。

(明日で最後か……)

私は坂を下りる。先生と話し込んでしまい、一人になってしまった。

明日は卒業式だ。

私の通う高校はゆるやかで長い坂の上にある。学校の最寄りの駅から真っ直ぐ登ると正面に学校の正門がある。つまり、寄り道でもしない限り、この学校の生徒は毎日この坂を往復する。近所に住む人にとっては、坂は自転車で登るのは疲れるし、朝夕は生徒がたくさん通って邪魔なので、あまり使いたい道ではないが、生徒にとっては学校生活の一部であり、青春の一部である。

普段の授業の日も、部活の日も、受験前で学校に自習に来た日も、ずっとこの坂道を通ってきた。一体これまでに何回通ったのだろう。

普段は特に何も考えていないけど、卒業の前日には色々な事が蘇ってくる。

友達と一緒に帰ったり、遅刻しそうな朝に必死で走って駆け上がったたり、坂の途中にあるコンビニで友達とお菓子を買って食べたり、駅に近いファーストフード店で部活の話し合いを夜遅くまでしたり、好きな人とたまたま一緒に歩いたり……。

そんな日常もこれで終わりだ。

明日は打ち上げに直接行くためこの道は通らない。もうしばらく来ることもないだろう。

私は坂道を下り切り、学校の方を見上げてみた。

(さようなら)

「坂の思い出」

俺の妹の真帆はひきこもりの中学生だ。本人は「私は自宅警備員として、毎日学校にも行かず家の平和を守ってるの。お兄ちゃんが安心して勉強できるのは私のおかげなのよ。感謝しなさい」とかアホなことを言っているが、俺の集中は乱してくるし、真帆は一日中パジャマを着ていたら誰がどう見ても不登校のダメ女だ。

俺には兄として彼女を更生させるという義務がある。絶対に真帆を学校に行かせてみせる。

こうして、俺の妹更生計画が幕を開けたのであった――

今日も俺が朝から黙々と机に向かって勉強していると、お昼頃に妹様もそもそとやって来た。今起きたところらしく、パジャマを着て、髪はぼさぼさ、寝ぼけ眼には目やにもついたままだ。

「おはよ。ずいぶん遅いお目覚めで」

「ねえ、ごはん」

俺の挨拶は無視ですか。なら、こっちにだって考えがある。

「お前に食べさせる飯などない。どうしても食べたいなら、今すぐ着替えて学校に行くんだ」

「やだ」

この程度で俺はくじけない。

「じゃあせめて着替えてきなさい。パジャマのままはだらしがないだろ？」

「別に。これ、パジャマじゃなくて自宅警備員の制服だし」

ここまでではよくあるパターンだ。だが今日の俺には秘策があるんだぜ。

「お前……いつまで自宅警備員とかアホ

なこと言ってるんだよ。父さんも母さんも、俺も、お前がちゃんと学校に行けるように色々考えてるんだ。なあ、ちゃんと現実見ようぜ。母さん泣いてたぞ？」

題して、いたいところをつく作戦だ。これは心に響くものがあるに違いない。

「ふーん。お兄ちゃんさ、私の心配する暇あったら自分の心配しなよ。浪人生のくせに偉そうに。一番家族のお荷物なのはお兄ちゃんだと思っけど？」

……ぐふっ。まだだ、まだ俺は負けてないぞ。

「人生っていうのはな、上り坂と下り坂がある。俺は大学という頂点を目指して辛い坂を上っている最中なんだ。辛いことがあってこそその頂上での美しい景色が見れるんだ。お前みたいに下り坂で楽ばかりしているのと、落ちていくばかりで新しいものは何も見えてこないんだぞ。なあ、一緒に坂を上らないか？」

急に真帆の表情が真剣なものに変わる。これは俺の勝ちかな。

「あのね……私はこうやってお兄ちゃんと一緒にいる時間がすごく幸せで、楽しくて、今が坂の頂上みたいなものだよ。お兄ちゃんの作るごはん、すごくおいしいし」
そう言っつて真帆は、はにかんで顔を赤らめた。

俺は黙って立ち上がり、真帆の頭をなで、キッチンへと足をすすめる。

妹の笑顔に乾杯――

※自宅警備員……ニートやひきこもりの俗称。

「人間の一生を一本の道に例えたとき、決して平坦なものにはならない」

右の主張を万人に共通する真理と仮定する。そうすると、生きている間に下り坂にさしかかる時期があることは必然だ。人間皆、最後は死を迎えるのだから、一生上り坂であるということは起こり得ない。

失敗、挫折、困窮、病氣、より規模を大きくするならば戦争、紛争、天災等、人を悲しませ、悩ませるものは枚挙に遑がない。辛くて悔しくて悲しくて、枕を濡らす日々をあなたも迎えるかもしれない。

「生きてさえいれば必ず光明を見いだせる」などという楽観的、無責任なことには言わない。ただ、不本意な境遇を受け入れるということも悪くないのでは？下り坂を下りた低い位置から仰ぎ見ることで初めて見える世界がきっとあると思うのだ。

僕は部活動が終わったあと、家に向かって自転車を漕いでいた。家の近くには大きな坂がある。普段なら押して歩く気にもなるのだが前に自転車で乗った六十歳を超えてそうなおじさんが見えてなぜか闘争心が掻き立てられた。案の定簡単にそのおじさんを坂の前半で抜くことができた。でも坂の中盤に差し掛かった時、僕が汗だくになりながら必死に登っているところをおじさんが涼しげな顔をして僕を抜いていった。「冗談だろ？」心の中でそう叫びながら敗北感に浸っていた。おじさんが乗っている電動アシスト付自転車を見て。

「とある夏の日の敗北感」

坂を駆け下りること程、爽快で、気持ちいいことは無い。そう言くと、周りのみんなからは怪訝そうな目をされるけど、これが私の唯一の楽しみなのだ。休日に、外に出かけては下り坂を探す一人旅に出る。より長く、急で、駆け下りがいのある坂が良い。ふと横を見ると、これまた美しい、真っ直ぐな坂道が傾斜していた……という発見の喜びも、旅の醍醐味であった。そして今日、ついに私は最高の坂を見つけた。真っ直ぐで、かつ凹凸なく道は整備され、涼しい風が心地よく吹いている。これこそ私的なベストダウンヒルだ。私は大きく三回深呼吸をして、坂道頂上の中央に立った。畏怖の念すら感じた。……私は走りだした。

私の人生、下り坂？

これが、私の人生か……。

私の人生、下り坂。

ふと我に返った。もう坂は終わっていた。忘れられない、あの感覚。さあ、帰ろう。

振り返ると、そこには上り坂があった。

パンツ——それは魅惑の言葉。まず第一に語感が良い。半濁音の『パ』で一気に攻めて『ン』と休憩を挟み、『ツ』で締める。実に良い響きだ。そして言葉から想像される物ももちろん素晴らしい。スカートの中に眠る禁断にして不可侵の神聖なる禁猟区はまさにサンクチュアリ、エデンの園だ。

と、いうわけでいつもの通り家の近くの坂、パンツ坂（もちろん命名したのは僕だ）に来た。ここは近くに高校があつて女の子がよく通るんだ。そして傾斜がなかなか急なのと制服のスカートが短いからか、よくスカートの中の聖域が見える。今日も覗きに励もう。お、こうしている間に女子高生が来た。

覗きモードへ移行、情報を入力してください

——自分の目線、百六十三センチ。物を拾うことで五十センチまで降下

——ターゲットとの距離、約十メートル

——ターゲットの足の長さ、約七十八センチ

——ターゲットのスカート丈、膝上十三センチ

——スカートの角度は約二十度

——風向南南東、風速は微小のため無視可能

——傾斜確認。十%

——外敵なし。周囲に人影なし。

——以上を計算式に入力

——オールグリーン ウォッチング
——認識可能。覗きに入る。

パンツを見るためだったらこれくらいの計算はすぐにこなさないといけない。長年の修行の結果、僕は一瞬でこれくらいは出来るようになっていた。さて、感動の瞬間だ……。僕はこの時のために生きているといつても過言ではない。パンツの柄、色を想像して答え合わせをする、この時が一番の楽しみだ。清楚そうな女の子が黒くてアダルティなパンツを履いていたり、いかにも遊んでそうな女の子が純白のヴェールを纏っていたり。なんせ普段は誰にも見せないような部分だ、パンツの柄にはその子の内面が出る。さて、この子はどうかかな？

「え……嘘だろ……短……パン……？」

ああなんてことだ、神はなんてことをしてくれたのだろうか。彼女はスカートの中に短パンを履いていた。スカートの中にパンツがないなんてありえない。こんなの絶対おかしいよ。僕は物を拾う体勢のまま崩れ落ちてしまった。

そんな僕に一人の男が話しかけてきた。

「君、ちょっといいかな？ 私は警察の者なんだけど、ここで覗きの被害が出てるって届が何件か来ているんだ。君、心当たりない？」

この時から、僕は人生の下り坂を転げ落ち始めた——

※覗きは犯罪です。良い子は絶対真似しないように

前を向いてもゴールは見えなくて

目の前のことで精一杯

立ち止まってみたり嘆いてみたり

時には背中を押してもらって

ふと振り返ると眼下には

少しだけ広がった景色が見えるから

またもう一度前を向いて

進んでみようって思えるんだ

「坂道半ばで」

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	人生	13 pt	2 位	3 sp
		<p>いったん登って、いっとき休んで、また登る。 3段階構成にしたアイディアが、なかのフレーズたちととても良く呼応した発想勝利の今週の表紙、シルバー・メダルの支持をいただきました。おめでとう!! 特別賞：物語・構成賞（レイアウト、坂と僕のやりとり、一度立ち止まる部分の表現が良いです。）グッドデザイン賞（文字通り、デザインが秀逸）レイアウトが素敵で賞（レイアウトが綺麗で中身とも一致しているから）</p>		
A02	坂での出会い	4 pt	7 位	1 sp
		<p>来ました、あたしトーク！ 怒濤の勢いに巻き込まれつつ、あれれ、お嬢さん、これだいじょうぶなシチュエーション？と聞き手にダークサイドがだんだん見えてきます。構成の妙、なかなかの策士さんでした。 特別賞：怖いで賞（「あたし」さんは何で殺意を抱かれてるの？） イチオシフレーズ：「あたしには彼氏がいるの」</p>		
A03	一生の友達	3 pt	10 位	1 sp
		<p>坂の上と下。金持ちと貧乏。でも、その不安定さ。シンプルで分かりやすい少年少女純愛ストーリーに乗せて、叙情性ゆたかに「儚さ」が語られます。 少年の心情表現が印象的でした。 特別賞：伏線で賞（結末が複数考えられる。）</p>		
A04	ボーリング	4 pt	7 位	1 sp
		<p>わはははは。爽快痛快カタルシス。 前半のもやもやイライラが、後半にカコーンと吹っ飛ぶ抜け感が最高です。雪だるまの頭くん、グッジョブ！ 特別賞：ストライク！で賞（わりと高評価だった。） イチオシフレーズ：「ボーリング」（正しくは「ボウリング」だよね！）</p>		
A05	四捨五入したら…	29 pt	1 位	0 sp
		<p>なるほど身長あと2センチかあ、とラストから、じわじわ来る仕掛けです。 「まさか」ネタは、たくさんのかたが採用したのですが、これがダントツで光ってました。 シンプルな構成のインパクトで、圧勝のゴールド・メダル&イチオシフレーズ大賞です、おめでとう!!! イチオシフレーズ：「上り坂、下り坂、まさか」「まさか」「欲しいあと二センチ…」×6</p>		
		0 pt	12 位	1 sp

A06	無題（第一回電車登坂レース）	<p>京急 v s 新幹線！ ぶっとんだ設定で、実況と解説の掛け合いで駆け抜け、はじけきっていただきました。 さて、王者京急に挑戦するのは、どの路線だ？と読者もアイデア提供したくなる吸引力大の一幕です。 なかなか、おもしろかったのにね。京急のネタ性が、なかなか浸透してなかったのが敗因か。 特別賞：マニアック賞（分かる人少数。） イチオシフレーズ：「京急にむかれた。」 「ピピーツ」</p>
A07	人生楽あり	<p>3 pt 10 位 0 sp</p> <p>上り/下りという2パターンはすぐに思いつくのですが、そうではなく、平坦なのと緩やかな下り坂という2択で構成したところがユニーク。その発想のおかげで人生訓っぽくリアルに仕上がって、ラストのオチで納得です。 気をつけよう、甘い言葉と下り坂。 イチオシフレーズ：「こっちもなかなか悪くないぞ」</p>
A08	坂の呪いは存在します	<p>5 pt 6 位 4 sp</p> <p>本館とか西8とかをイメージしつつ読みました。たしかに「坂の呪い」ですね。 早ちゃん工ちゃんとか、割烹着とか小ネタもくすりくすり炸裂して、ナイス掛け合いでした。 大人気で最多特別賞です、おめでとう！ 特別賞：そこらへんは頑張ってる覚えま賞（東工大ネタを入れてきたので是非特別賞をあげたかった。）小保方賞（割烹着www）内輪大好き賞（内輪大好き）本館賞（東工大では坂だらけで入り口の階が何回か分からなくなるから）</p>
A09	坂の途中	<p>9 pt 3 位 0 sp</p> <p>もはやおなじみ、力作長編入ります。 最悪な状況になったからこそ、坂の途中で出会えた小さな命のいっしょうけんめい。 ていねいに描ききって、読者の心を揺らします。しっかり読んでもらえてのブロンズ・メダル、おめでとう！</p>
A10	「坂」のつく言葉や文	<p>4 pt 7 位 3 sp</p> <p>おー、がんばって揃えましたね。おつかれ～。 文字数少なくなってきたらこのほうが、かえて難しかったのでは？いろいろなことを調べた努力を買いいます。 特別賞：なめらかじゃないで賞（段差と内容を改善した方が……）読点でごまかしてるで賞 がんばったで賞（がんばってつくったと思う。） イチオシフレーズ：「日本坂道学会」</p>
A11	消しゴムと僕	<p>7 pt 5 位 1 sp</p> <p>消しゴムが黒龍の魔眼なんて、まさに中2病！小中高大と、ステップをひとつずつ上がって、まさかの行方不明へ。ユーモラスな語り口で楽しませていただきました。 実話ですか？と問いかけたら作者さん全力で否定されましたが、中2病のくだりのリアルさ、ちょびっと黒歴史入ってるって見た！ 特別賞：みんなで探してあげま賞（なつかしい気持ちを思い出させてくれた） イチオシフレーズ：「僕の大切な消しゴムを見つけた方はこちらまでご連絡ください」</p>

		9 pt	3 位	0 sp
A12	逆上がり	<p>ラストは懐かしの逆上がり、できなくて苦労した経験をお持ちのかたも多いのでは？ リズムカルに展開して、「えいっと宙を蹴り上げろ」と青空に爽快に気合いを放り投げます。 とても爽やかな読みごちの今週の裏表紙でした。おめでとうブロンズ・メダル！</p>		

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
		14 pt	3 位	1 sp
B01	唯我論的坂	<p>ユイガロンのって?? あーそういうことね、なるほどお、と一瞬、虚を突かれます。 とっても自己チュー唯我独尊な坂君の言い分が、今週の表紙です。 シンプルなインパクトが大ウケで、ブロンズ・メダルでした、おめでとう！ 特別賞：題名凝ってるで賞（題名がいい）</p>		
		1 pt	11 位	1 sp
B02	坂に物申す	<p>定義から折り目正しく入って、イントネーションの話をはさみつつ、まとめへと。ラストに戯れ句のおまけまでつくマルチぶりは、あっぱれ。 饒舌な文体に酔いました。正統派がんばれ！ 特別賞：理系っぽいで賞（なんか物理っぽい！）</p>		
		1 pt	11 位	0 sp
B03	故郷の坂	<p>しっとりストーリー。夢のお告げの花一輪。 育った家は無くなっても思い出はしっかり心の中に咲いている。ていねいにフレーズを吟味し、王道で描ききった力作でした。 段落冒頭一字下げを守ると、もっと読みやすくなると思います。</p>		
		3 pt	7 位	2 sp
B04	仮装好きの反くん	<p>漢字遊び入ります。 ぽんぽんぽんと景気よく展開して、βをあげましょうから坂と阪の友情トークへと急展開。 よく練り込まれた構成で、賑やかさも◎。 特別賞：難解賞（意味がわからない。）パクられたで賞（私＝書記がパクられました。） イチオシフレーズ：「オオン！ボクを下敷きにしちゃって下サ～イ！ンアッー！」 「ンアッー！」</p>		
		4 pt	6 位	1 sp
B05	坂（レイアウト）	<p>上り坂に負けないぞ、の坂道レイアウトが、さいごすうっと平坦になる演出が効いています。 読者も一緒に登って達成感を得られたような。 特別賞：Good Design 賞（文章の組み方が坂をイメージしているの。）</p>		
		3 pt	7 位	0 sp

B06	坂の思い出	卒業とともに別れてゆくもの、友人・先生・思い出……それらを象徴するものとしての、坂の上の学校という存在。ありありと伝わってきます。ゆったりと振り返るような語り口が、よく似合っていますね。	18 pt	2 位	4 sp
B07	妹更正計画	真帆ちゃん最強！ マンガのシーンのようなコミカル展開で、ラストではあっと笑顔が広がって、作者さんの構成力と妄想力に乾杯です。 パ○ツに負けて、むしろ良かったのか？ おめでとうシルバー・メダル!! 特別賞：現実見ま賞（こんな妹ほしかったなア）超絶キモいで賞（むしろ作者を更正させたいと思った）兄妹愛？！で賞（仲の良い兄妹だが、両親からしたら、ともに引きこもりのかわいそうな状況だから）シスコン賞（いいよ。） イチオシフレーズ：「こうして、俺の妹更正計画が幕を開けたのだった——」「妹の笑顔に乾杯」×3「美しい景色」			
B08	無題（人間の一生を）	必ず来るのが下り坂。ならば、それをどう受けとめようか。 折り目正しいフォントと言葉遣いで、まっすぐに決意を伝えていただきました。 イチオシフレーズ：「下り坂を下りた低い位置から仰ぎ見ること初めて見える世界がきっとあると思うのだ。」	3 pt	7 位	0 sp
B09	とある夏の日の敗北感	負けてくやしい電動自転車。実話でしょうか。なかなかリアルな描写です。 レイアウト工夫すると、全く見栄えが違うでしょうに、そこ、もったいない。 特別賞：どっこい賞（どっこいしょー）	7 pt	4 位	1 sp
B10	無題（私の人生、下り坂）	ベストダウンヒルとは、また変わった趣味をお持ちで……。 「私の人生、下り坂」のリフレインが妙に頭に残ります。浮かれて下って気づいてみると。オチも決まりました。 イチオシフレーズ：「これが、私の人生か……。」	3 pt	7 位	0 sp
B11	無題（パンツ）	さすが、その名に恥じない攻めっぷりでした。 「こんなの絶対おかしいよ」と思ったそのあなた、魔法の呪文は「シール」です。 キモい、不快だ、問題だ！の大バッシングをものともせず、圧勝のゴールド・メダル、そして最多特別賞&イチオシフレーズ大賞という三冠達成です、おめでとう!!! 特別賞：不戦賞（キモかった）パンツで賞（パンツだから。）問題で賞（実体験ですか？）不快で賞（読んでいて不快になるから。）はじらいをもちま賞（オチがしっかりしている） イチオシフレーズ：「All Green Wacthing」「まさにサ	27 pt	1 位	5 sp

		ンクチュアリ」×2 「ウォッチング」 「君、心当たりない？」×2
		6 pt 5 位 0 sp
B12	坂道半ばで	大騒ぎのあと、ラストは坂の半ばで思うこと。第三連の「眼下には少しだけ広がった景色」というフレーズが、すうっと気持ちに入ってきます。クールダウンにふさわしい今週の読み納めでした。